



期間中、本照寺では写経とマインドフルネス体験を行います。各、それぞれ20名以上、13名の方にご参加いただきました。

●各種体験の様子  
厚木市では、貴重な文化財の保護と郷土への関心を高めることを目的に、2005年から市内文化財の一般公開を行っています。今回、本照寺も会場の一つとして宝物館を公開し、飯山の本禅寺さんとの同時開催で、2日間の来訪者は2か寺合わせて延べ350名にのぼったそうです。

11月29日・30日に厚木市主催の文化財一般公開に合わせ、宝物館を公開し、約180名の方にご参拝いただきました。

## 明けまして おめでとうございます



◆昨年12月14日（日）、午前9時から12時まで、清掃ボランティアとして18人の方々が参加してくださいました。当日は雨でしたので本堂や庫裡をお掃除いただきました。皆さん本当に！ありがとうございました。m(\_ \_)m



### 副住職のコーナー

●ご希望の方はお声を！  
宝物館でご案内をしていると、地域の歴史に関する質問を多くいただきます。厚木市の文化財一覧を見ても、その多くは寺社の所蔵です。お寺は地域のお墓を預かる場であると同時に、歴史を守り伝える役割を担っているのだと改めて実感しました。

### 市主催で宝物館を一般公開

●感想など  
宝物館のご案内をしていると、地域の歴史に関する質問を多くいただきます。厚木市の文化財一覧を見ても、その多くは寺社の所蔵です。お寺は地域のお墓を預かる場であると同時に、歴史を守り伝える役割を担っているのだと改めて実感しました。

●ご希望の方はお声を！  
宝物館でご案内をしていると、地域の歴史に関する質問を多くいただきます。厚木市の文化財一覧を見ても、その多くは寺社の所蔵です。お寺は地域のお墓を預かる場であると同時に、歴史を守り伝える役割を担っているのだと改めて実感しました。

●ご希望の方はお声を！  
宝物館でご案内をしていると、地域の歴史に関する質問を多くいただきます。厚木市の文化財一覧を見ても、その多くは寺社の所蔵です。お寺は地域のお墓を預かる場であると同時に、歴史を守り伝える役割を担っているのだと改めて実感しました。

★今年も「花美」さんが墓参用の花をご用意してくださいます。3月17日（日）までです。

令和8年 明けまして  
おめでとうございます  
本年もよろしく  
お願い申し上げます



朝の詩  
自由  
茨城県水戸市  
吉本遼香 35

方程式  
奈良市  
赤井政次 82

子持ちししやも  
東京都杉並区  
平岡あみ 5

叱ったあとで  
茨城県水戸市  
園部啓子 58

ご埋葬  
おまかせください  
埋葬料 11,000円  
字彫代 38,000円  
お墓のすべて  
ご相談ください  
●花立交換 ●メジ修理  
●砂利交換 ●耐震化...  
本照寺様 出入り石材店  
株式会社イシックス  
0120-011140

今年で88年目を迎える  
仏壇仏具の河内屋です。  
「本照寺だより」をご持参のお客様に、  
特別割引をさせていただきます。  
有限会社 河内屋  
Tel. 046-221-0269  
お仏壇の  
河内屋

竹林整備と  
焚火で焼きもの  
■11月22日に23名で竹林の間伐と焚火で焼き芋の会を行いました。  
■左の写真は作業風景ですが、焚火の炎が高く上がっています。山で竹を切る人、竹を運び出す人、広場で竹を解体する人、焚火に枯れ竹や枝葉を放り込む人など、皆で作業分担をして行いました。大人の数での作業だったので、10数本の竹の間伐処理する  
■毎年、活動に賛同いただける方は、是非お力添えいただければ幸いです。





教育の目的は 自己の成長と 人の役に立っているという認識を育む

▼「自分だけの幸せは絶対あり得ない」と喝破する木下氏だが、これは宮沢賢治の「世界が全体幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」に通じ、また自利利他の理念でもある。更に「人の役に立っていることを認識するほどの喜びはない」との木下氏の言葉こそ、利他の本質を突く素晴らしい言葉である。

超難関高校受験で数多くの合格者を出すカリスマ塾講師として子供や保護者の高い支持を集めた木下晴弘氏。氏は子供たちの人間力に焦点を当て、それを伸ばすことで顕著な実績をものにしてきた。人間の運命をも変える心の力を、氏はどのようにして教育に取り入れてきたのか。

S君が教えてくれたこと

■私が学生時代、学習塾講師になつて間もない頃、S君という中学3年生の生徒が入塾してきました。無口で少し変わった子でした。授業の時にノートを出さない。数学の問題はテキストの余白で計算する。だから計算ミスばかりしているのです。だからあまりかねた私は、ある時、彼を呼び出して言いました。「ノートはどうした」。しかしS君は黙ったまゝうつむいています。次の日は必ずノートを持ってくるように約束させましたが、それでも彼はノートを持ってきてきませんでした。私はカチンときて思わず怒鳴りつけました。「反抗する気やな。よし分かった。先生がノートをやるわ」。私は500枚ほどのコピー用紙の束を机にボンと投げ出しました。す

るとS君は「ありがとうございます」とうございます。と御礼を言うのです。夏になると、周囲の生徒からS君に対する苦情が寄せられるようになりました。彼がいつも着ているヨレヨレのTシャツとジーパンが臭うというのです。この時も私は彼を呼んで毎日着替えるよう言いました。が、それから服装は相変わらずでした。私は保護者面談でS君の母親に生活態度を改めるよう注意を促してほしいと訴えましたが、母親は全くうしろ話を始めました。「あの子は小学校の頃から、この塾に通ってK学院に進学するのがずっと夢だったんです。でも先生、大変がありせん……」。S君が早くに父親を亡くし、母親が女手一つで彼を育て上げてきたことを知ったのはこの時でした。

教育に必要な2つの要素

■しかし、その疑問はすぐに氷解しました。S君は最初から経済的にK学院に行けないと分かっていた。た。それでも勉強強をして、見事合格してみせたのです。なんと、健康志だろ。この日以来、S君と会うことはありませんでした。3年後、嬉しい出来事がありました。東大・京大の合格者名が週刊誌に掲載され、その中にS君の名があったのです。私は思わず心の中で叫んでいました。

アビリティトレーニング社長 ■木下晴弘・きのした・はるひろ昭和40年大阪府生まれ。同志社大学卒業。銀行員を経て塾の専任講師となる。多数の生徒を難関校へはじめてする超難関校へと導き生徒、保護者から高い支持を得る。平成13年アビリティトレーニングを設立。全国の関係者を対象に授業開発セミナーなどを行っている。著書に「ココロで分かると必ず人は伸びる」「涙の数だけ大きくなれる」など多数。

「決まって申し上げるのは自分だけの幸せは絶対にあり得ない」と

多くの生徒がS君の生き方に共鳴して涙し、やる気が高まっていくのが伝わってきます。この話に限らず心からの感動を覚えた時、子供たちの目は輝き出します。生活態度や学習態度だけでなく、不思議なこと学業向上にも顕著に反映してくるのです。ある時、生徒と講師の絆を深め、子供たちの人間性や学力を育むキーマンが「感動」と気づいた私は、日々の学習活動の中でいかに感動を与えるか、という心の教育に力点を置くようになりました。感動とは、それまでの思い込みがひっくり返る時に起こります。授業のちよとした工夫でもそれは伝わるのが可能です。例えば、難解な数学の問題を前に四苦八苦しているような時、予想もしない解法を示してあげると、「あっ、そうか」と歓声が上がります。これも感動で

編集後記

▼心身一如とは心と身体は繋がって切り離すことのできないひとつのもの。まさに心身一如。左記に「人の役に立っていることを認識するほどの喜びはない」とあるが、医学上でもその認識があるようだ。医学博士の堀江重郎氏は「元気の素」に「誰かに何かを与える時にテストステロン(男性ホルモン)の数値が上がる」と述べている。テストステロンは骨や筋肉、皮膚や頭髪の成長を促し、積極的、前向きな心を育てるホルモンである。下記 中川氏も「命も輝くのです」と同様に述べている。

した。真つ先にS君の名前を見つけた時の喜び。それはとても言葉で言い尽くせるものではありません。「S君に早く祝福の言葉を掛けてあげたい」。しかし、母親と一緒にやって来たのは夜7時を過ぎてからでした。母親の仕事が終わるのをずっと待っていたようでした。気がつくくとS君と母親は掲示板の前で泣いていました。「よかったな。これでおまえはK学院の生徒じゃないか」。我がことのように喜んで声を掛けました。私は彼に明るく言いました。「先生、僕はK学院には行きません。公立のT高校で頑張ります」。私は一瞬「えっ」と思いました。T高校も高レベルとはいえず、K学院を辞退することなど過去にないことだったからです。

す。■心の働きの大きさを知った私は、数学の授業中によく偉人や市井の人たちにまつわる様々な逸話を紹介し、人は何のため学ぶのか、どう生きるべきなのかといったメッセージを繰り返して繰り返して伝えました。S君の話もそのひとつです。入試直前、私は子供たちを会場の一か所に集めて最後の訴え掛けをします。彼らを精一杯勇気づけて会場に送り込んであげるのは私です。私は励ましの言葉の後、こう付け加えました。「きょうは素晴らしい舞台が準備されたね。でも、これは君たちの力だけでできたことではないよね。誰かの応援があったよな?」すると「お父さん、お母さん」という声が返ってきます。「そうやな。じゃあこれから会場に行くけれど、その前にあそこにいるご両親に一分間だけ

御礼を言っておいで。いままで育ててくれてありがとう、頑張ってくることからね、と」。これから出陣する子供たちに感謝の言葉を掛けられてグツとこない親はいません。思わず子供を抱きしめて泣き出す人、その親の姿を見て涙を流す子。いろいろな光景が繰り広げられます。■大学卒業後、いったんは銀行に就職したものの、同じ塾の専任講師になり、様々な苦労をし、何とか人気講師として支持を得ることができたようになり、支持を得ることも大きな壁にぶつかることがしばしばでした。私はよく、子供一人を講師に選ぶ自分の得意分野を皆の前で講義して回らっていました。これも予想を上回る結果を出しました。教えるにはまず自分が徹底して勉強しなくてはいけませんから、たちまちその分野のエキスパートになっていき、そして自分の授業を仲間が理解してくれ、喜びが大きな感動を生み、学習意欲を一層高めていったのです。■私は学習活動に感動という要素を取り入れる中で、数ある感動の中でも、人の役に立っていることを認識するほどの喜びはないと感じるようになってきました。やがてそれはある確信へと変わりました。つまり、教育の目的は2つ。ひとつには自己の成長、もうひとつが他人の役に立っているという認識を育むことだということです。そこで決まって申し上げるのは、自分だけの幸せは絶対にあり得ないということ。子供たちは皆、それぞれの得意分野を持っています。それを伸ばして社会の役に立つことができたなら、子供たちにとつてこれほどの幸せと感動はありません。それを支援するのが教育者や大人の役割なのです。(月刊「教知」428号から一部抜粋)